


 ねん がつ
2022年2月

アマルチウス・オリエンタリス

 あさひまち はっけん しんしゅ
一朝日町で発見された新種アンモナイトー

アマルチウス・オリエンタリス (*Amaltheus orientalis*) は、とやまけんあさひまち ちゅうせいだい富山県朝日町の中生代ジュラ紀前期き ぜんき やく おく まんねんまえ ちそう はっけん しんしゅ(約1億8500万年前)の地層から発見された新種のアンモナイトの化石(写真)です。ねん がつ ふくいけんりつきょうりゅうはくぶつかん けんきゅういん だいひょう けんきゅう2021年5月に福井県立恐竜博物館の研究員を代表とする研究チームによりろんぶん はっぴょう論文に発表されました。「オリエンタリス」はラテン語で「東洋の」という意味があります。

アマルチウス属ぞくのアンモナイトはちゅうせいだい き ぜんき きたはんきゅう中生代ジュラ紀前期に北半球のひかくてき こういど ほつきよく ちか ちいき うみ比較的高緯度(北極に近い地域)の海せいそくに生息していました。アマルチウス・オリエンタリスがはっけん ちそう発見された地層からは、ロシアで発見されている他のアマルチウス属ぞくのアンモナイトも発見されていることから、ロシア地域ちいきのアンモナイトと関わりが深いことが明らかになりました。



アマルチウス・オリエンタリス

今回発表されたアマルチウス・オリエンタリスは、ロシアで発見されたアマルチウス属ぞくのアンモナイトととくちょう に特徴が似ていましたが、それらに比べて殻の巻きが緩く、殻の表面にある線状の凸型模様とつがたもよう ろく かんかく ふきそく(肋)がはっきりしていて間隔が不規則なことなどから新種として認定されました。

写真の標本は学名を付ける(しんしゅ めいめい)(新種を命名する)ために基準となる「模式標本」で、きじゅん もしきひょうほん当館の収蔵庫に大切に保管されています。ふじたまさと(藤田将人)

こんげつ とやましかがくはくぶつかん ほか もしきひょうほん今月のかぐのギモン：富山市科学博物館には他に模式標本はありますか？
こた とうかん(答えは当館HP www.tsm.toyama.toyama.jp/sqa を見てください)



PDF